

第3回GX実行会議

「GXを実現するための政策イニシアチブ」について

2022年10月26日

三菱商事エネルギーソリューションズ株式会社

代表取締役社長 岡藤裕治

GX実行会議（第3回）レジュメ

- **全体**
「支援・インセンティブ」、「規制・自主的ルール」を両輪として取り組むことで、**産業競争力強化とGXを同時に実現していくことが可能。**
- **支援・インセンティブ**
 - **投資支援策の優先的実行が重要。**
欧米ではGX領域での取組みが先行しており、企業レベルでの国際的な競争力に大きな差が付く懸念。「GX経済移行債」を始めとする**投資支援策が先行**することで、企業側も短期的な成果に捉われない実効性のある取組みが可能となる。
⇒ 具体的施策の例として、水素・アンモニアに係る値差補填の早期導入等。
 - 限られた財源の中では、対象分野・事業の選択・集中が自ずと求められるが、以下の点がポイント。
 - 各産業セクターはバリューチェーン・サプライチェーンの中で密接に関連している為、個々の産業分野や特定技術への個別支援に留まることなく、**産業横断的な取組みやGXを通じた新産業の創出等**、産業競争力強化とGX実現に資する**一体的構想・取組みに対して包括的且つ一体的な支援策を導入**すべきではないか。
⇒ 施策の一例として、再エネ特区を設置、同特区内での再エネ発電・定置用蓄電池導入・グリーン水素製造・水素を原料とする各種グリーンプロダクツ生産といった一体構想に対する包括的な開発投資支援等。
 - 個別技術開発への支援策は必要だが、技術開発に留まらず**確実に社会実装に繋げることが重要**であり、**具体的なプロジェクト等を通じた支援により社会実装化を後押し**し、企業が国内市場を梃子に成長して国際的な産業競争力を付けていくことを目標とすべき。
 - 効果的な支援策とするためには時間軸の意識も重要。技術の発展段階・支援の費用対効果や投資効率を踏まえて**支援分野と支援額の濃淡をつけ、時間軸を定めるべき。**
- **規制・自主的ルール**
 - 支援策の実効性には一定の時間が必要と見られる為、規制・自主ルール側で短期的な成果を求めることは慎重であるべきではないか。
 - 国際競争力の維持・強化に資するよう、GXリーグの枠組みもグローバルなルール形成と歩調を合わせた形であるべきではないか。
 - 企業の自主的な取り組み意欲を損なわないよう、目標達成時のインセンティブとのバランスや導入の時間軸を十分考えるべきではないか。